

地球温暖化対策計画書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	宝交通株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	愛知県名古屋市熱田区神宮四丁目7番27号
工場等の名称	湯〜とびあ宝
工場等の所在地	愛知県名古屋市南区前浜通1-9
業種	サービス業（他に分類されないもの）
業務部門における 建築物の主たる用途	その他
建築物の所有形態	賃貸ビル等（賃貸している建築物）
事業の概要	温浴施設
計画期間	令和5年4月1日 ～ 令和8年3月31日

2 地球温暖化対策計画書の公表方法等

公表期間	令和5年10月12日 ～ 令和8年3月31日		
公表方法	○	揭示 閲覧	（場所） 湯〜とびあ宝事務所
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先			

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

私たちは、地球温暖化対策をはじめとする環境保全の重要性を認識し、事業活動のあらゆる分野を通じて、継続的发展が可能な社会の実現に貢献します。

1 省資源・省エネルギーの活動を推進します。

2 廃棄物の発生を抑制し、リサイクルを推進します。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

管理統括者 : 取締役部長 栗木剛

↓

管理企画推進 : 江場 隆一 (メンテナンス部ビル担当)

近藤 邦幸 (温浴部管理担当)

大澤 努 (温浴部管理担当)

↓

全従業員

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,971	t-CO ₂
①を 除く 温室 効果 ガス 排出 量 換算	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		2,971	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度 令和 4 年度 排出量（実績）		目標年度		令和 7 年度	
			目標排出量		目標削減率	
温室効果ガス 総排出量	2,971	t-CO ₂	2,926	t-CO ₂	1.5	%

項 目	基準年度 令和 4 年度 排出量（実績）		目標年度		令和 7 年度	
			目標排出量		目標削減率	
原単位あたりの 排出量		CO ₂		CO ₂		%

（2）目標設定の考え方

温室効果ガスを1年あたり0.5%ずつ、3年間で1.5%削減する。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
エネルギー使用量等の把握	エネルギー使用量を把握し、分析する。 デマンドコントローラーを活用し、最大需要電力を抑制する。	月に1度ペースでエネルギー使用量を共有する。
省エネルギーの推進 (空調)	施設内の空調設定温度（冷房26℃、暖房20℃）、 外気導入量を管理。 室内機の熱効率の改善	各所室内機の定期的な分解洗浄により 熱効率の改善を図る。
省エネルギーの推進 (照明)	施設内照明器具及び敷地内駐車場照明器具のLED化 時間帯により、通路照明器具の部分消灯を実施	2025年までに施設内及び施設敷地内駐 車場のLED化を完了させる。
省エネルギーの推進 (都市ガス)	各浴槽の配管・バルブ等の監視を強化し、湯の無駄な排水を抑制する。 サウナ扉、風除室扉、浴場各所入口の扉が解放されていないか監視し、室内・個室内の気温低下を予防する	浴槽各系統の配管の点検、排水バルブの定期交換の実施によりボイラー燃焼時間を削減する。 扉のクローザーを定期的にメンテナンスし、無駄な室温低下による追い炊き時間を削減する。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

ア これまでに実施している再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 計画期間における再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

(3) 環境価値（クレジット等）の活用

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組